

## § 1 はじめに

ここ近年、日本各地で地震が発生し、今後も大地震が起きる可能性があると言われている。そこで、新宿という都心に通っている文化女子大学学生を対象に地震防災に関するアンケート調査を行い、防災の現状および問題点について考えていきたい。

## § 2 調査方法

文化女子大学新都心キャンパスに通う394名にアンケートを実施した。  
住環境学科 (1~4年生・160人) 生活造形学科 (1年生・54人)  
服装社会学科 (1年生・76人) 服装造形学科 (1年生・104人)

## § 3 関心度・認知度の結果および考察

地震防災への関心度の質問の結果を図1に示す。

次に、ライフライン、マグニチュード、ハザード・マップの3つの単語の意味に関する質問の結果(一部)を図2である。「ガス・水道・電気」が正解

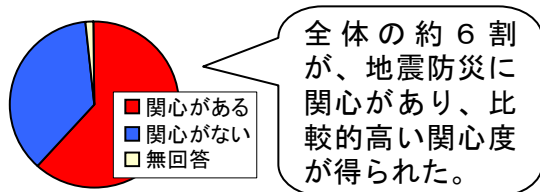


図1 地震防災への関心度

なのだが、「人命救助のための救急体制」と回答した学生の方が多かった。マグニチュード、ハザード・マップは、比較的正確率が良かった。

自助努力の認知度の結果を図3に示す。全体の約9割の学生が自助努力を認知していなかった。自助努力の対応期間は、「3日間」で、「知っている」と回答した学生が一番多く回答したのも「3日間」であった。次に、帰宅困難者の認知度と帰宅ルートの認知度の質問の結果をそれぞれ図4、図5に示す。帰宅困難者の認知度は、約6割の学生が認知していなかった。帰宅ルートの認知度は、約8割の学生が認知していなかった。

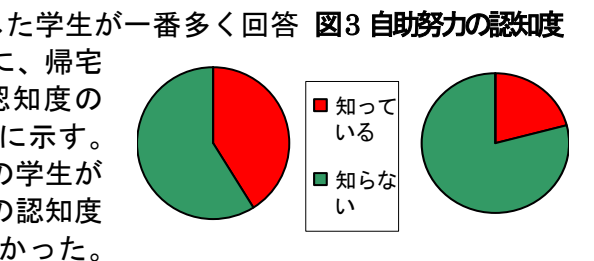


図3 自助努力の認知度

次に大学にいた場合の一時避難場所の認知度と渋谷区の広域避難場所の認知度の質問の結果を図6、図7に示す。

一時避難場所の認知度と渋谷区の広域避難場所の認知度ともに、約9割の学生が認知していないということがわかった。次に、大学にいる時に地震が起こった場合について、何か知りたいことがあるかを質問した。その結果を図8に示す。

「ある」と回答した学生が約7割であった。

次に、地震防災に関する情報の取得についての質問の結果を図9に示す。「ある」と回答した学生が9割近くで非常に高い値だった。地震防災情報の入手先として一番多かったのは、「テレビ・ラジオ」であった。次に多かったのは「学校」であった。「新聞」・「雑誌・本」という回答も比較的多かった。「事業所」という回答は1人もいなかった。

次に、現在の住まいに非常持出品として、何を用意しているかを質問した。その結果を図10に示す。

「ある」と「ない」の回答がほぼ同じ割合で半々だった。用意してあるものとして一番多かったのは、「ロウソク・マッチ・懐中電灯」であった。次に多かったのは、「乾パン・ミルク・缶詰などの飲料品」であった。「飲料水」・「救急医療品・常備薬」という回答も多かった。

次に、大学内で大地震が起きた時、安全だと思う階・場所について質問した。その結果を図11に示す。

圧倒的に多かったのは、「L階」であった。全体の約4割程度であった。安全だと思う場所で一番多く回答されていたのは、「中庭」であった。次に多かったのは、「体育館」であった。「遠藤記念館」・「トイレ」という回答も比較的多かった。

次に、大学内で大地震が起きた時、危険だと思う階・場所について質問した。

その結果を図12に示す。

圧倒的に多かったのは、「20階」であった。全体の約6割程度であった。危険だと思う場所で一番多く回答されていたのは、「エレベーター」であった。次に多かったのは、「学食」であった。「スペース21」・「D館」という回答も比較的多かった。

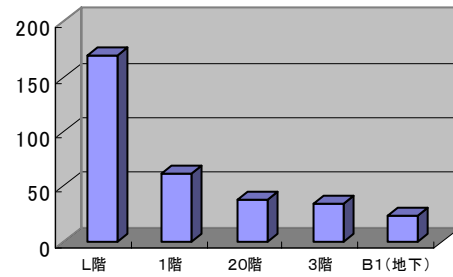


図11 安全だと思う階(ベスト5)

## § 4 大学にいる際の行動

### ■ 19階の教室にいた場合



「机の下」と回答した学生が一番多く、全体の約6割を超えた。次に多かったのは、「階段」であった。

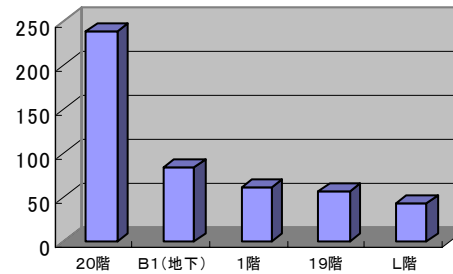
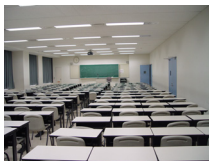


図12 危険だと思う階(ベスト5)

### ■ 5階の教室にいた場合



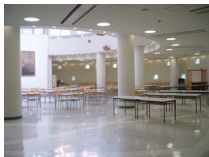
19階の教室にいた場合と同様、「机の下」と回答した学生が一番多く、全体の約6割を超えた。次に多かったのも「階段」であった。19階の教室にいた場合と5階の教室にいた場合の行動は、ほぼ似ていた。ただし、「外に出る」と回答した学生は、5階の教室にいた場合の方が、19階の教室にいた場合よりも約6倍多かった。これは、低い階の方が地上に近いからより外に出やすいことによる。

### ■ 校舎の前にいた場合



「建物(学校)から離れる」と回答した学生が一番多く、全体の約3割であった。次に多かったのは、「その他」であった。「その他」の回答率が高かったため、少数意見が多数あったことがうかがえる。あと、「しゃがむ」という回答も多かった。

### ■ 1階の学食にいた場合



「机の下」と回答した学生が一番多く、全体の約4割であった。次に多かったのは、「外(中庭など)に出る」で4割近くの回答率だった。ここでも、「その他」の回答率が高かったため、少数意見が多数あったことがうかがえる。

### ■ エレベーター内にいた場合



「非常(緊急)ボタンを押す」と回答した学生が一番多く、全体の約3割であった。次いで「エレベーターの外に出る」で2割近くの回答率だった。「その他」の回答率も高く、少数意見が多数あった。「おりる」・「何もしない・じっとしている」の二つの回答も多かった。

## § 5 まとめ

文化女子大学学生は、地震防災への関心度は高いものの、知識は全体的に充分とは言えない結果であった。特に実行動が伴わない人が多い。首都直下型地震の発生確率も高まっており、いつ、どこで大きな地震に遭遇するかわからない。自分の身をしっかりと守る知識をもち、行動できる学生であることが期待される。最後に、下記に大学および学生に対する提案をまとめた。

**文化女子大学に対する提案**

- ★4年生でも避難場所・避難経路を知らない学生が多いため、ポスターなどを学内に掲示できるとよい。(手帳に書かれている認知度は低い)
- ★避難訓練も、ただ避難するだけでなく、こういうときには何に気をつけて、どういう行動をするべきかといった、知識も学ばせる方がよい。
- ★授業時に災害があったときに備え、3日程度学生と教職員が生き延びられる備蓄を検討することが期待される。(帰宅に3日以上かかる学生も多い)

**文化女子大学学生に対する課題と解決に向けた提案**

- ★全体的に備えや知識は充分だとは言えない状況である。
- ★災害時は携帯もほぼつながらないと考えておくこと。
- ★大学から徒歩で帰宅する場合の帰宅ルートなど、緊急時の情報をしっかり知っておくことが必要。
- ★他人を頼らず、自力で3日は生き延びられる用意をすること。
- ★大学で配布された地震用マニュアルを熟読し、財布や手帳に入れておくこと。
- ★避難訓練には積極的に参加し、大学の避難場所や避難経路を確認する!